

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後最終主日礼拝

2020年11月29日

前奏：

主を待ち望む

1. 主を待ち望むアドベント 最初のろうそく灯そう 主が道を備えられた この時を守ろう
主の民よ 喜べ、主は近い

招きのことば：詩編 84 編 1-5 節

指揮者によって。ギテイトに合わせて。コラの子の詩。賛歌。

万軍の主よ、あなたのいますところは | どれほど愛されていることでしょう。

主の庭を慕って、私の魂は絶え入りそうです。| 命の神に向かって、私の身も心も叫びます。

あなたの祭壇に、鳥はすみかを作り | つばめは巣をかけて、雛を置いています。

万軍の主、わたしの王、わたしの神よ。| いかに幸いなことでしょう

あなたの家に住むことができるなら | まして、あなたを賛美することができるなら。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。

(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは私たちのために救い主をお送りくださいました。クリスマスにお生まれになって人となってくださった神の子、イエス・キリストによって、私たちはあなたの愛を知りました。今年もクリスマスを待ち望んでいます。私たちの歩みを祝福してください。

クリスマスにおいでになったイエス様は、私たちの救いを完成されて、天に帰って行かれました。そして世の終わりにもう一度私たちを迎えに来てくださいます。イエス様によって私たちはすでにすべての罪を赦していただきました。神様の子どもにさせていただきました。いつイエス様にお目にかかってもいいように、私たちが目を覚まして待っていることができますように、どうぞ私たちを導いてください。

また、イエス様をお待ちしている間、この世にあってひとりひとりに与えられている毎日の使命を、今週も喜びをもって、堅実に、心を入れて果たすことができますように、私たちを鍛えてください。また、あなたの証し人として人々にイエス様の福音をお伝えすることができますように、どうか私たちを用いてください。そして、互いに愛し合い、高めあう一週間となりますように。

新型コロナ・ウィルスの感染はまた拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：Iコリント1：3-9

わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。わたしは、あなたがたがキリスト・イエスによって神の恵みを受けたことについて、いつもわたしの神に感謝しています。あなたがたはキリストに結ばれ、あらゆる言葉、あらゆる知識において、すべての点で豊かにされています。こうして、キリストについての証しがあなたがたの間で確かなものとなったので、その結果、あなたがたは賜物に何一つ欠けるところがなく、わたしたちの主イエス・キリストの現れを待ち望んでいます。主も最後まであなたがたをしっかり支えて、わたしたちの主イエス・キリストの日に、非のうちどころのない者にしてください。神は真実な方です。この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。

福音書朗読：マルコによる福音書13章24-37節

「それらの日には、このような苦難の後、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は空から落ち、天体は揺り動かされる。そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、

人々を見る。そのとき、人の子は天使たちを遣わし、地の果てから天の果てまで、彼によって選ばれた人たちを四方から呼び集める。」

「いちじくの木から教えを学びなさい。枝が柔らかくなり、葉が伸びると、夏の近づいたことが分かる。それと同じように、あなたがたは、これらのことが起こるのを見たら、人の子が戸口に近づいていると悟りなさい。はっきりしておく。これらのことがみな起こるまでは、この時代は決して滅びない。天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。」

「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。父だけがご存じである。気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたには分からないからである。それは、ちょうど、家を後に旅に出る人が、僕たちに仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目を覚ましているようにと、言いつけておくようなものだ。だから、目を覚ましていなさい。いつ家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け方か、あなたがたには分からないからである。主人が突然帰って来て、あなたがたが眠っているのを見つけるかもしれない。あなたがたに言うことは、すべての人に言うのだ。目を覚ましていなさい。」

讚美歌 298 番

- 1 安かれ、わが心よ、主イエスはともにいます。いたみも苦しみを おおしく忍び耐えよ。
主イエスのともにませば、たええぬ悩みはなし。
- 2 安かれ、わが心よ、なみかせ猛るときも、父なるあまつ神の みむねに委ねまつれ。
み手もてみちびきたもう のぞみの岸はちかし。
- 3 安かれ、わが心よ、月日のうつろいなき み国はやがてきたらん。うれいは永久に消えて、
かがやくみ顔あおぐ いのちのさちをぞ受けん。 アーメン

説教：「目を覚ましていなさい」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今日は待降節第1主日、教会の新年です。4週間後にイエス様の誕生されたクリスマスが来ることを心待ちにします。4つのろうそくのうち、今朝は1つ目のろうそくを灯しました。来週は2本目を灯します。このようにイエス様の誕生を待ち望みます。

同じように、私たちはイエス様がもう一度来られるときを待ち望みます。イエス様は世の終わりに、もう一度来てくださると聖書は告げています。このことについて真剣にお考えになったことはありますでしょうか。

多くの人はいエス様を待ち望むべきときに、そんなことはない、と固く信じています。イエス様が最初に来られた時、民はたしかに救い主を待ち望んでいました。しかし、イエス様がお生まれになることを人々は気にしていませんでした。ですからクリスマスの夜、マリヤとヨセフを迎えてくれる宿屋はなく、好意で貸してくれた馬小屋の片隅でイエス様はお生まれになりました。ベツレヘムの街には多くの人が住んでいましたが、町から遠く離れた野原で羊の世話をしている野宿をしていた羊飼いたちが天使の知らせを信じてお生まれになったイエス様にお目にかかるためにやってきました。遠く東の国から博士たちが星を見て救い主の誕生に気づき敬意を表してヘロデ王を訪ねましたが、ヘロデ王もヘロデ王に頼まれてイエス様の誕生の場所を教えた民の祭司長や律法学者たちもイエス様のところに来ることはありませんでした。ヘロデ王はイエス様を殺そうとさえしました。ちょうどノアが箱舟をつくっているときに、町の人々は大雨が降って水があふれるなどというノアの言葉を信じないで、あざわらって、箱舟の扉が閉じられるまで飲んだり騒いだりしていたように、私たちも、毎日何もかわったことがないのだから、イエス様がやがてもう一度来られるなんて突拍子もないことは信用しない、気にしない、と思っても不思議ではありません。

もちろん、私たちはイエス様が今も生きておられ、今ここにも来てくださっていることを信じています。私たちは聖餐式の讃美歌のなかで、マラナタ、マラナタ、主の御国が来ますように、とうたいます。主の御国がきますように。マラナタというのは第Iコリント16章22節やヨハネの黙示録22:20につづられているように「主よ、来てください」という信仰の叫びです。確かに聖餐にあずかるとき、目に見えませんがいつもここでともにいてくださるイエス様の尊い血と体にあずかります。主はここに来てくださっています。

また、主の祈りの中でも「御国を来たらせたまえ」と私たちは毎日祈ります。生活の中で、ふと神様を全く無視して生活していたと気づくとき、どうぞ自分のわがままな思いではなく、主イエス様の正しくあたたかいご支配が、私も私の周りのすべての環境をも包んでくださるように、と祈ります。主イエス様はその祈りにこたえて、私たちの毎日を豊かに導いて支えてくださいます。御国はすでに来ています。

しかし今朝読んだマルコの福音書13章ではイエス様は、今度は栄光に包まれてすべての人に再び現れる、と言われていました。そしてそのときが天地の滅びる世の終わりというのです。

それは旧約聖書の預言からも知ることができます。旧約聖書ゼカリヤ書9章9節に「見よ、あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる」と預言されています。同じく旧約聖書ダニエル書7章13節以下で、「見よ、人の子のような方が天の雲にのって来られる。」と言われていました。私たちはこのように、来てくださると約束されているイエス様を、主よ、来てください、と叫んで待ち望んでいます。

それではそれはいつ起こりますか。イエス様はそれは誰にもわからない、それは父なる神様だけがご存じだといわれました。抜き打ちで来られるということです。まさか、今ではないでしょうと人々が油断しているときに来られるということです。そして、待降節、アドベントのこのとき、イエス様の最初のお誕生を待ち望む今、もう一度来てくださるイエス様の来臨をも、重ねて、同じ心で待ち望むのです。

イエス様が最初に来てくださったとき、馬小屋で生まれ、ナザレでひっそり育ち、30歳まで家庭人としての使命に忠実に、神様と隣人を愛した、罪を犯さない、清い生活をなさいました。その後、3年間公の暮らしをなさいました。弟子を召しだし、訓練し、ご自分は人々の間で福音を伝え、神さまから遣わされた救い主としてのみわざをなさいました。そして十字架にかけられて、私たちの罪を償うために、永遠の刑罰を受けてくださいました。そして3日目によみがえってくださいました。第1回目にこられたとき、イエス様は私たちのために、罪の赦しと新しい命を与えるために、すべてのことを成し遂げてくださいました。私たちは聖書のみ言葉を聞いて、このイエス様を自分の救い主と信じて洗礼を受けます。そして、イエス様のゆえに罪を赦されて神さまの子どもとされていることを喜んで日々歩んでいます。

2回目に来られるとき、イエス様は私たちを迎えに来てくださいます。イエス様を信じていない人々は自分の罪を償うために永遠の滅びに向かいます。魂はこのことを知っているのに、死を恐れます。イエス様を信じている人は、その人としてはほかの人と同じくまったくの罪びとですけれども、イエス様に免じて赦されています。それで死ぬことも永遠の命の完成なので恐怖に支配されることはありません。

イエス様は2回目に来られるときまで、どうしていなさい、と言われていませんか。どのようにして待っているとよいのでしょうか。マルコの福音書13章22節からは、ちょうど家をあとにしてしばらく旅に出る人が、しもべたちに仕事をわりあてて責任を持たせることに似ている、とイエス様は教えてくださいました。今、イエス様がもう一度来られることを待っている間、私たち一人ひとりにも仕事がわりあてられています。責任を持たされています。家庭でのあなたの使命は何でしょうか。社会でのあなたの使命は何でしょうか。教会でのあなたの使命は何でしょうか。あなたがこの人生で神さまからいただいている任務は何でしょうか。世の終わりや、イエス様の再臨を待つときに、浮足立って、いつもしている日常の生活を軽んじるのではなく、身近な毎日の生活の中で神さまに責任を託されている働きに、心を入れてあたるのです。それがイエス様を待つ間にすることです。門番だったら夜に目を覚まして見張るように、ということが求められています。目を覚ましていなさい、とイエス様は言われます。今週一週間、イエス様があなたのためにおいでくださる働きは何でしょうか。勉強、仕事、家事、休憩、いろんなことをしますが、そのひとつひとつを、主であるイエス様の使命として、心を入れて味わいつつ手掛けていく姿が、私たちのイエス様を待ち望む姿となります。

救い主であるイエス様を待ち望みましょう。与えられた日々の働きに心を込めてあたりながら、感謝をもって、人々を救い、人々とともに、人々を尊び大切にして、さらにできることがないか、と自分を鍛えて人に役立つ毎日を今週もさわやかに喜びをもって歩んでいきましょう。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

讃美歌 301 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 山べにむかいてわれ 目をあぐ、助けはいずかたより 来たるか、
天地(あめつち)の み神より 助けぞ われに来たる。
- 2 **み神は汝(なれ)の足を 強くす、み守りあれば汝(なれ)は 動かじ、
み民をば守るもの まどろみ眠りまさじ。**
- 3 み神はあだをふせぐ たてなり、汝(な)が身をつねに守る かげなり、
夜は月、昼は日も 汝(なれ)をばそこなうまじ。
- 4 **み神はわざわざいをも 避けしめ 疲れし魂をも 休まず
出ずるおり、入るおりも たえせず 汝(なれ)を守らん アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 **アーメン**

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊のおおみ神に ときわに耐えせず み栄えあれ み栄えあれ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏